



貧困問題や気候変動をはじめとした地球規模の課題に対する企業の取り組みについて社会からの期待や要請が高まるなか、持続可能な社会の実現に向けた矢崎グループの取り組みについて、矢崎社長にインタビューしました。

まず、CSR活動の基盤となる事業の現状と2018年度の展望をお聞かせください。

2017年度、世界経済は全体として緩やかな回復が続いたものの、政治・経済面においては、依然として不安定な状況が継続しました。自動車業界においてはCASE^{*}に代表される急速な高度技術化やクルマからモビリティへの動きなど100年に一度とも言われる大変革期にあたる、まさに激動の一年となりました。

矢崎グループはこうした環境をリスクではなくチャンスと捉え、時代の変革にいち早く対応できる仕組みづくりにチャレンジし、連結売上高は1兆9,266億円と過去最高を達成することができました。自動車機器部門では海外を中心とした生産体制の再構築のほか、さらなる技術力の向上をめざし、国立研究開発法人産業技術総合研究所と設立した共同プロジェクトを本格稼働しました。矢崎エナジーシステム(株)では、運んでほしい荷物情報(荷主)と、運びたい車両情報(運送会社)をWEB上でマッチングさせるサービスをタイで開始し、運送業界が抱える安全・安心、環境・省エネルギー、効率・利便に関する問題への具体的解決に向けた活動をスタートしました。これらの活動は、大きく変化する社会からの期待やお客様のニーズにいち早くお応えするといった短期的視点はもちろん、長期的な視点からも矢崎グループにとつ

ての柱になると期待しています。

2018年度については、社長方針の「源」に沿って、事業の趣旨・目的を今一度見つめ直し、ものづくり企業としての原点に立ち返りたいと考えています。原点を見つめ直し、ものづくり基盤や部門間の連携の一層の強化を通じて矢崎の強みを発揮することで、ステークホルダーの皆様にも最高の価値を提供し続けることができる企業をめざします。

昨今、「経団連企業行動憲章」にSDGs(持続可能な開発目標)の概念が取り入れられるなど、持続可能な社会の実現に向けた企業の取り組みが一層求められていますが、矢崎グループとしてどのようにお考えですか。

SDGsは、企業の持続的な発展と社会への貢献をいかに両立させるかということをお問いただしたいと思います。そしてこれは社是「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」に基づき、ものづくりを通じて社会に貢献したいという私たちの想いと通じています。SDGsを加味し矢崎グループが事業を通じて社会課題の解決に取り組んでいくために大切なことは、これまで同様に社是をゆるぎない軸とすることです。創業以来、矢崎グループは世界に、地域に、人に貢献できることは何かということを常に自らに問いかけつつ事業を進めてまいりました。今後はさらに10年後、20年後、

社長メッセージ

地域とともに発展し、 持続可能な社会の実現に貢献します

矢崎総業株式会社 代表取締役社長

矢崎 信二

そして50年後といった長期的な視点の社会の将来像から、矢崎グループのあるべき姿をバックキャストし、私たちが持続可能な社会の実現に向けてどのように貢献していけるのかを考え、取り組んでいきたいと思えます。

SDGsが掲げる17のゴールのなかで、矢崎グループが今後注力したい領域をお聞かせください。

SDGsに掲げられたゴールはそれぞれ独立したのではなく、互に関連していると思えます。たとえば貧困と健康・福祉などです。矢崎グループに置き換えると、主力製品であるワイヤーハーネスの製造は、労働集約型であることが特徴であり、これは多くの雇用を生み出していることを意味しています。雇用の創出は貧困問題解決の一助になるとともに、それが飢餓の撲滅、さらには貧困が解決すれば環境保全の重要性に意識を向ける機会となるなど、すべてがつながっていると確信しています。こうしたことも踏まえて、今後矢崎グループとしてどのような領域に貢献できるか、具体的な検討を進めます。

持続可能な社会の実現に向け、CSR活動を推進していくうえで、矢崎グループが大切にしたいことをお聞かせください。

矢崎グループはさまざまな国や地域の皆様に支えられ、今や46カ国、596拠点で活動を展開するまでに成長しました。今後も矢崎グループが地域とともに持続的発展を続けてい

くためには、“Think globally, Act locally”つまり、グローバルな視点を持ちつつも、それぞれの国や地域の文化や歴史、慣習、価値観を理解することがとても大切です。それぞれの国や地域が抱える社会課題は必ずしも同じではありません。だからこそ、課題自体に目を向けるのはもちろんのこと、それぞれの国や地域における課題の背景を理解し、これを出発点としてCSR活動を一層推進したいと考えています。そして、こうした取り組みを通じて、世界中の仲間や友達、家族に喜びや幸せを届けられたらこれより嬉しいことはありません。

最後に、このレポートを通じてステークホルダーに伝えたいメッセージをお聞かせください。

矢崎グループの事業活動を通じて、社会課題の解決にどのように貢献していくのかについて、ステークホルダーに対しわかりやすく訴えていく必要があると思えます。そのために、自社にとっての重要度とステークホルダーにとっての重要度を考慮した、矢崎グループとしてのマテリアリティ（重点課題）についても検討を進めています。

厳しく変化の激しい事業環境のなかで、今後とも「つなぐ」技術を一層進化させながら、人々や社会が求めるものを先取りし、新たな価値提供を通じて住みよい社会と豊かな未来の実現に貢献してまいります。そして、今後もステークホルダーの皆様の声をいただきながらCSR活動に取り組み、本レポートを通じて、活動の状況を開示していきたいと考えています。引き続き一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。